

幼児の実情を踏まえ、多様な動きが経験できるように遊びの工夫を行った実践例

学校名 大阪市立東小橋幼稚園（大阪府）
全校幼児数 71名（男児40名 女児31名）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 06（6971）8342
メールアドレス k148213a@ocec.ne.jp

1 研究のねらい

体を動かして遊ぶことが好きな子供に育てる

2 研究の概要

疲れやすく、できる・できないなど結果や形を気にするため進んで体を動かそうとしない子供が多く見られる。そこで、体を動かすことの楽しさが感じられるように遊びをイメージ化し、まずは、子供たちの気持ちの高まり（運動遊びへの意欲や好奇心の向上）をねらいに取り組んだ。

○実践プログラムの紹介

□ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊びの例

●当園は園庭が狭く、全園児が活動すると内容が限られ興味や関心に応じた経験ができにくい。少人数幼稚園なので異年齢の交流も行いながら、限られた場を工夫し活動を深めるように取り組んだ。

○「とんぼのうんどうかい」の絵本の世界をイメージ化し、イメージを広げながら遊びを進め、動きが広がった例

登場人物のトンボとコウモリになって遊んだ。どちらも相手に負けないように体を鍛えるという目標を共通理解したことで、トンボの羽を鍛える、コウモリの腕を鍛えるなどイメージから遊びを作りだした。高所から跳ぶ、鉄棒にぶら下がる、鉄棒を回るなど多様な動きが経験できるようにしたこと

で体を動かすことが楽しいと感じるようになり、いろいろな遊びに挑戦する姿が見られた。また、全園児で遊んだことが刺激となりイメージへの関心を高めて遊ぶことができた。

○環境を整えることで、多様な動きを楽しみ挑戦していった遊びの例

一本げたやパカポコで、冒険へ行くイメージをもって遊べるコースを作った。子供たち自身でコース作りができるように、スタートとゴールにアーチのトンネルを用意し、牛乳パックの草を超えたり、フープの道や坂道などを加えていったりするなどの援助をしていった。子供たちは工夫したり試したりしながら、いろいろな動きに挑戦するようになった。倒れないようにしっかりと立ってふんばるなど、全身の部位に力を入れて進んでいき、無事にゴールについたときは、できた達成感や満足感を味わえる活動となった。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 鉄棒をするときは必ず大人がつくようにし、握り方や友だちと一緒に遊ぶ時の約束を確認した。
- 2 子供に移動させるなど、扱える大きさの遊具を準備した。
- 3 遊具や用具を安全に使っているか見守り、適宜知らせたり声かけをしたりした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 遊びをイメージ化したことで、できる・できないなど気にせずに積極的に体を動かして遊ぶようになった。そのことが自信につながり、新しい運動遊びにも進んで挑戦するようになった。
- 2 日々の生活の中で、体を動かして遊ぶ経験を継続していけるように、家庭との連携を具体的にどのようにしていくのかを考えていきたい。

○ 研究内容

【とんぼのうんどうかい】

コウモリになって体を鍛えるイメージで遊ぶ



【冒険ごっこ】

自分たちでコースをつくり、自分なりに挑戦している



【手作り遊具】

子どもたち自身で遊びを進めていく



【蜘蛛の巣】

多様な動きができるように、ゴムを貼りくぐって遊ぶ

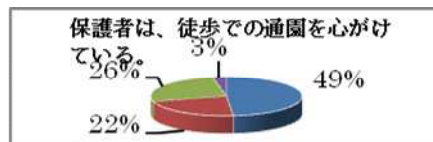
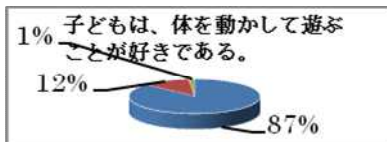


【おうちの方と頑張る!】

運動についての意識を項目に入れた保護者アンケートを行い、課題を見つけ、具体的方策を考える。

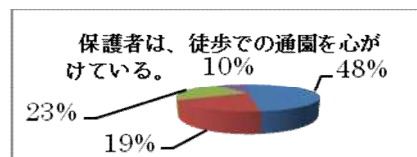
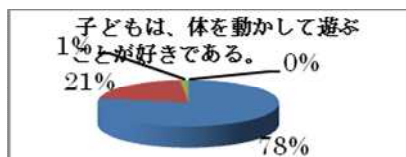
(よくあてはまる) ■ (だいたいあてはまる) ■ (あまりあてはまらない) ■ (まったくあてはまらない) ■

25年度1学期保護者アンケートから



・ほぼ全保護者が、子供は、体を動かして遊ぶことが好きだと感じている。しかし、体力測定の結果とは、比例していない。子供の遊びの内容や動きを見直したい。

25年度3学期保護者アンケートから



・期待した成果ではなかった。徒歩通園の意識は、少し下がっている。家庭の事情も大きいと思われるが、少しでも歩く習慣を身につけられるようにしたい。また、生活の中で親子で継続できる活動や遊びを探していきたい。

【継続は体力なり】

日々の生活の中で運動遊びを意識して取り入れることが大切である

今後は、日々の生活の中で、家庭と連携しながら互いに意識して運動遊びを継続的に取り入れて、(やってみよう、やってみようと思う) 子供たちの気持ちの高まりを持続させていきたい。特に、「投」の動きを意識した遊びや活動を工夫したい。また、親子のふれあい遊びの内容を工夫することや機会を増やすことに努め、保護者と共に子どもたちの意欲を向上させていきたい。